

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100933		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホームこせん 1F		
所在地	熊本市中央区壺川二丁目3-70		
自己評価作成日	平成30年10月4日	評価結果市町村受理日	平成31年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成30年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本城のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校の教習場に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中学校があり、幼児から高齢者まで共に暮らす地域となっている。開設7年目を迎え、地域の方や他事業所からも様々な場面でお声掛けを頂いている。又、近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、利用者とそのご家族が希望される「健康で安心できる生活」に近づける支援体制となっている。沢山の方々に支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも「大家族」の一員になれるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成23年に設立したホームは、坪井川沿いの立地を生かした散歩で季節を感じたり、地域の人々と挨拶や会話をする機会を持っている。地域の協力や連携は積み重なり、入居者の日常を更に活気ある充実したものに変えている。入居者への尊厳について法人全体で統一した方針を掲げ、ホームでもオムツ外しをはじめ全職員が重要性を認識し、チームワークでケアにあたっている。草花や樹木の開花、植えた花や野菜の成長具合などを楽しみに散歩や散策を楽しまれる方、アロハシャツやジーンズなどお気に入りの衣装で過ごされる方、得意の歌声やピアノ演奏など入居者の表情からもホームが安心した生活の場になっていることが窺える。ホームの年数と共に入居者も身体機能が低下され、以前のように昔話を笑いに変えてくださることは難しくなって来られた方もおられるが、職員は残されている能力を大切に見守り、反応を見ながら、語り掛けを行っている。今後も一人ひとりに応じた居心地の良さを提供するホームとして活躍頂きたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>おむつはずし、ユニットケア、夜間入浴の三大理念に基づいたケアを実施している。ただし、入浴については、行事やそれに伴う職員の配置の都合上昼間に行くこともある。</p>	<p>「お一人お一人の残された能力を生かしながら、個々に役割を担って頂き、安心した居場所作りが提供できるよう援助します」の他、3項目を理念として掲げている。ユニットごとに目につきやすい場所に理念の掲示を行う他、申し送り等々に基本理念を確認し、実践に努めている。また、運営推進会議でも、年度初めには理念について説明するなど周知を図っている。</p>	<p>理念については、日々のサービスの提供場面ごとに、できているかいないかを検証し、できていない部分については、どう見直していくか等の振り返りを職員間で話し合われることを期待したい。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>カラスがゴミを食い散らかす問題が発生、自治会長に相談し、ゴミ入れネットの設置を行った。またホームの正面がT字路の交差点になっており、自治会からご要望で、カーブミラーの設置を行うことになり、地域の安全確保へ協力をさせていただいた</p>	<p>校区の夏祭りや隣接の自動車学校のイベントでは、参加できる内容で交流を楽しめるようにしている。また、散歩する際には、地域の方々に挨拶や声を交わすなど交流を図っている。カラスの被害対策に自治会の支援を頂いたり、地域の交通安全対策として、ホーム建物前のT字路にカーブミラーの設置の協力の要望を受け、法人と速やかに検討し応じている。地域との交流や理解に繋がるよう、管理者は、行事の案内チラシを直接近隣・地域に配布するなど努力もあり、開設当初に比べ密になってきている。</p>	<p>昨年は、専門学校生の介護実習を受け入れているが、今後は、小・中学生の福祉体験、職場体験の受け入れや、保育所、幼稚園との交流について、情報の発信をするなど取り組まれることが期待される。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>昨年度より、近隣住民に 行事参加のお誘いを始めて見た 現在ではまだ 参加実績はないものの 今後も 近隣住民とと 交流を図るべく お誘いは継続していく</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度より風水害に対する避難訓練を実施しており2年続けて参加、助言を頂いた。また民生委員さんからのご紹介により、ギター弾き語りの慰問の方のご来苑があった。	運営推進会議は、2ヶ月ごとに自治会の代表、老人会長、民生委員、地域包括支援センター、家族などの参加により開催している。年に数回は、風水害時対応の避難訓練やそうめん流しなどの行事に参加してもらい、入居者の様子を見てもらうようにしている。会議では、行事報告、現状説明などの後に質疑や活発な意見交換などが行われていることや、地域代表からの貴重なアドバイスなど有意義な会議になっていることが議事録から確認できた。外部評価の後は、結果報告・説明されている。	運営推進会議の議題として、次回には、「看取り」をテーマに話すことが予定されている。今後は、食事、排せつ、入浴支援等身近な取り組みをテーマにし、ホームの取組を伝える事で参加者にもわかりやすく、意見交換の幅も広がるものと思われ、検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ささえりおよび案内のある研修等には積極的に参加を行っている 今年度は地域ケア会議の参加地域社会へ目を向ける一環としての参加を行なっている	運営推進会議には、毎回、地域包括支援センターが出席し、ホームの実情を理解するとともに、必要な情報を提供している。また、会議や研修への案内もあっており、今年度は、地域ケア会議に出席している。更に、区役所保護課とは、直接連携し対応するなど、良好な協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	要介護度の上昇によりリハビリパンツの利用者が増加したが 今年度 夏の気温上昇や各利用者の再アセスメントを実施し 従来から実施していた布パンツの再使用を図った。夜間のインターホンコールや布団に鈴を付けて、音が鳴り利用者様が行動される際、すぐに訪室し対応できる体制を整えている	身体拘束廃止・虐待防止の勉強会は、3ヶ月に1回の実施に努めている。また、ケアの中で、事例等が出てきた時を捉えて、実践的に実施するようにしている。直近の虐待死事件発生後は、ホーム会議で話し合いをするとともに、市の特別集団指導や関係団体の緊急ミーティングに出席し、復命講習会を開くなど予防の徹底に努めている。安全面から使用している夜間のインターホンや布団の鈴は、継続の必要があれば家族に説明している。	管理者は共に業務にあたり、会議に限らず話を聞く機会を持ちコミュニケーションを図るなど、メンタル面への配慮に努めている。今後も、事例を含めた研修や特に夜間帯の業務でユニット間の職員が状況を確認する時間帯を持つなど、支え合うことで負担が少しでも和らぐのではと考える。出来る事がないか今後も検討していかれることを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本年度の報酬改定より始まった 身体拘束廃止や権利擁護の研修委員会を 実施。8月に発生した虐待死に伴う緊急ミーティング 特別集団指導と積極的に参加し 会議は勉強会にて速やかなフィードバックを実施した		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度 成年後見人制度を利用する 入所者の新規受け入れを行い 後見人さんとご家族の間の取次ぎや入院時に関する支援や 退所時(入院から死亡まで)の一部支援も実施を行った		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に重要事項の説明を行い、ご家族の理解と納得をして頂いた。また見学时にも、特にご質問の多い料金や急変時の対応や入院時に伴う支援内容等の説明も ご要望に合わせて十分な説明を行った		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で上がった最も多かった改善の意見として、一般スタッフの氏名をはっきりとさせて、もっと親密にコミュニケーションをとりたいというものがあり、勤務スタッフポーを各リビングに設置する事にした	入居者の意見、要望は、普段の関わりの中で聞くようにしており、買い物ツアーなどの実現に活かされている。家族会からは、職員とのコミュニケーションが円滑にいくようにとの要望があり、勤務スタッフボードを設置している。家族の意見等は、申し送りノートに記載し、職員で共有するとともに反映させている。家族には、運営推進会議にも参加を呼び掛けており、会議メンバーに意見、要望等を伝えられる機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	以前より運営推進会議等でのご意見もあつた植木市見学 を新たに設け遠距離外出回数が増加し行うこととした。勉強会の内容として実施したい具体的項目を挙げ、行うことにした。	職員の意見や提案は、ホーム会議(月1回開催)や日々の業務の中で聞くようにしており、管理者もケアに入り、意見等を言いやすい雰囲気づくりに努めている。職員からは、会議の時のホワイトボードの設置や、入居者に乳酸菌飲料を飲用してもらってはどうか等活発に意見が出されており、それを生かすようにしている。法人施設長も可能な限りホホームを訪れて、入居者と会話をしたり、職員からの話を聞き実情を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年度より管理者交代があり その中で特にスタッフの 業務改善を積極的に 行うようになった その際は会議等を利用した職員の意見反映を行い 業務改善や作業の効率化等を積極的に現在も進めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年、今年と職員が大幅に入れ変わったが、今年度は新人研修のフォローアップの時間を多くあてる体制を整え、職員の定着率UPと、現場処遇以外の時間の確保にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年は 認知症RUNへの参加を行った 参加申し込みの 日程の都合上ご家族の了承が得られず 認知症利用者の方の直接参加はできなかったが 本人も時期が分かれば参加を検討していく		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の話に耳を傾け、ゆっくり聞くことを大切にしている。会話の中にある不安、要望など聞き逃さないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と個別に話し合いを機会を持ち、要望や不安などを聞き取りを行っている。必要時には連絡を行い、状況を報告し情報を共有できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族が安心して生活できるように、必要としているサービスを代弁するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の手伝いや洗濯物たたみ、食器拭きなどできることをスタッフとともに行って頂き、毎日の生活を担っているという自覚を待っていただけるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には行事やイベントなどの案内を行い、参加を募っている。ご利用者とご家族と一緒に過ごせる機会を持ち楽しい時間を過ごして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで生活されてきた環境が維持できるように努めている。居室に写真や大切にされたいたものを置いたりしている。	買い物ツアーで以前から利用していたスーパーや商店街に入ったり、行きつけの理髪店を引き続き利用するなど、馴染みの関係が継続できるよう支援している。また、行事等で家族と食事処に出かけたり、お墓参りに出かける入居者もおられる。更に、楽器の演奏や庭いじり、好みのジーンズやアロハシャツの着用等、趣味、特技、こだわり等についても継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置にも配慮し、会話や交流ができやすい環境作りに努めている。また、関わりができるようにスタッフがご利用者間の間に入り、関りが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所された先の問い合わせ等に応じ、ご利用者の必要な情報提供を行っている。また、逝去された方のご家族がその後も遊びに來られ、ご利用とも交流を図って頂いている。イベントなどの案内を行い、参加を募っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、会話、表情、行動等からご利用者の思いを聞いたり、感じたりしてきずいた事をスタッフ間で共有し、ケアに活かしている。困難なご利用者については、ご家族から情報を頂き、ケアに繋げている。	日頃の会話や日常の関わりの中で、入居者一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。耳の不自由な方には聞こえる側から話しかけ、発語困難な方には表情や行動等から汲み取り、家族からの話も聞き、思いや意向の把握に努めている。職員間で気づいたことは、連絡ノートを活用して情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や連携シートなどにより情報収集を行っている。またご本人やご家族からの意向を伺い、今までの生活が継続できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の生活リズム、心身の状態を把握し、小さな変化に気付くように注意している。状態に変化が生じた時もスタッフ間で情報を共有し、対応できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族から意向を伺いケアプランに反映している。定期的なモニタリングを行い、変更が生じた場合は、ご利用者、ご家族と話し合いを行い現状にあったプランの見直しを行っている。	日々の生活や会話の中から、本人や家族の意向を汲み取り、ケアプランに繋げている。現状に変化が生じた場合は、再アセスメントを実施し、モニタリングを行いながらケアプランに反映させている。モニタリングは3ヶ月毎に行い、現状に即した計画を作成している。家族への説明は、わかりやすいよう確認しながら進め、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきは個別に記録し、定期的に評価を行っている。暮礼ノートを活用し、各フロアのご利用者の状況をスタッフが情報共有して入り、変化が生じた時の介護計画も見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を仰ぎながら医療機関や専門職のアドバイスを受け、連携を図っている。また外出など個別に対応が必要な場合は、スタッフのシフト作成時より計画を立て対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、小学校の夏祭りに出かけ、地域住民の方々や、子供さん達と触れ合ったりして、楽しんで頂いている。近所のコンビニに買い物に行くなどして、日々の暮らしを楽しまれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医からの2週間に1回の往診を受けるか、ご本人・ご家族が希望する選択されたかかりつけ医への受診をされる方もおられる。協力医には、休診日や夜間でも緊急性がある場合は対応して頂いている。	家族の了承を基に、現在は全員が協力医による定期往診や必要に応じた個別診察を受けている。緊急時などにも対応可能な協力医の存在は家族や職員にとっても心強いものとなっている。専門医については、基本的に家族対応としているが、困難な場合は、ホームでも柔軟に応じている。入居者の日頃の健康状態や受診結果については、家族と共有を図り、相談に応じながら適切な医療支援ができるようにしている。年齢や入居年数から身体機能が低下していく現状もみられ、日々の健康管理には特に注意を払い、気になることは医師へ相談を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調の変化があると、その都度看護師に報告・相談し、夜間は24時間オンコール体制をとり、状態に応じた対応や処置を行っている。必要時にはすぐに受診できるような支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、利用者様の情報・ホームでの生活状況を詳しく記入し、文書で提出している。退院時には、できるだけ早い退院ができるよう、ご家族とも連絡を取り合いながら受け入れ体制を整えるよう努めている。また、退院後の生活がスムーズに行われるよう、看護師・OT・PT・SWと情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針を説明をし、本人・家族の意思を確認している。病状や状態等が重度化した場合は、状況に応じてご家族・医師・看護師・スタッフと早期に話し合いをして、今後の方針を決めている。看取りに関する指針についても、できるだけ、本人・家族の希望を優先できるように心掛けている。	入居時に重度化した場合の対応について指針をもとに説明を行い、家族の意思を確認している。状態に変化が生じた時点で、家族や医師・職員など関係者と今後の方向時点で再度話し合っている。家族の思いはその都度変化するものであり、職員間でも思いに応えるために出来得る対応を検討している。この2年間で行われた看取り支援では、家族や医師の協力もと安らかな最期を迎えられ、支援度は本人様を偲ぶ時間が持たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会の中で、急変時の対応方法や事故発生時の対応について、確認している。また、緊急時対応方法の訓練、救急救命法の勉強会を年1回実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に(年2回)避難訓練を実施し、地域の方々にも協力して頂き、取り組んでいる。風水害対応の訓練も、年に一度実施。実施後は、業者やボランティアの方々から意見を頂き、反省点に繋げ今後の対策として取り入れている。	地域の方々の協力を得た、年2回の避難訓練と、風水害を想定した訓練を年1回実施している。訓練後は設備機器メーカーをはじめとした参加者から受けた意見を今後活かしている。火元をはじめ、日々の安全チェックは夜勤者を中心に行っており、食備蓄は1週間分と、カセットコンロなどの備品を備えている。	管理者は電動ベッドのコンセントについても、状況では発火に繋がらないかなど課題を挙げている。今後もホーム内に危険箇所はないかなど、意識を持って安全管理に努めていかれることを期待したい。また、発生した熊本地震についても、風化させることなく、自然災害についても定期的に取り上げていかれることを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ使用の際は必ず扉を閉める。又、ホームには隣接する住宅がある為、夜間、居室でのポータブルトイレでの排泄介助の時はカーテンを閉め対応している。居室での排泄に戸惑われる方には、ゆっくりとした口調で説明を行っている。	入居者の尊厳に配慮した支援については、オムツ外しをはじめ法人全体の指針として、周知徹底されている。個々の能力を生かしながら、役割を担ってもらい、安心したホームの生活を提供することを職員間で共有し、実践に繋げている。呼称は苗字や下の名など希望や家族にも確認しながら対応し、会話も馴れ合いの言葉など失礼のないようにしている。入浴で同性介助を希望される方にも対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との日々の生活の中に溶け込んでいく事で、今望まれていること、それを如何に自己表現に繋げていけるか、クローズド・クエスチョンを用いる事で「はい」「いいえ」想いを表現し易くしてもらっている。最終的には自己決定できるように、出来る限り関わり合いを多く持つ事で支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同じ時間を利用者様、スタッフで共有し生活している。しかし利用者様にはそれぞれの時間軸というものがある。その為、各利用者様にはそれぞれのペースにあった言葉かけ・傾聴・洞察を用いて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入床介助の際はパジャマ等、起床時にはその日に着る洋服等、ご自身の希望のものを選んで来て頂いている。ご自身で手に持ち選ぶ事が困難な方には、その利用者様の好きな色・柄を把握しておき、数点選び見て頂き、決定して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の切込みが出来る利用者様には、それをして頂いたり、困難な方も傍で切った食材を入れるボールを持って頂いたりしている。片付けの際は食器を拭いて頂いたり、体調に応じてそれぞれの利用者様に声掛けを行っている。	各ユニットで入居者の希望や季節感を味わってもらえるような献立を作成している。新鮮な食材が市場から届けられ、入居者も食材切りや味見など出来る事で食への関わりを持ってもらっている。家庭的な料理を盛り付けにも工夫し、入居者と職員が食卓を囲むことで、話も弾み満足の度合いも確認できている。誕生会をはじめ、正月やひな祭りなどの行事食にも入居者が喜んでもらえるよう、ひと工夫を凝らしており、ホームだよりでも紹介されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉・魚と生命維持の基本物質であるたんぱく質を多く含んでおり、交互に使う様になっている。栄養が体内へ吸収され難い方へは、栄養補助食品を提供している。水分は1500mlを基本とし食事の前後は勿論だが、日中・夜間問わず補水しながら確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後はその都度ケアして頂いている。介助が必要な利用者様も出来る限り、ゆっくりとした口調や、ジェスチャーを用い御自身で出来る所まではして頂いている。正し磨き残しがある様な場合は、口腔用スポンジを用い、一部介助にてケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄間隔を記録し情報を共有している。夜間は尿取りパッドを使用している利用者様にも、居室のポータブルトイレを使用して頂くことで尿意を促す支援を行っている。日中は尿取りパッドを使用せずに、記録をもとに共用トイレへと誘導している。	法人全体でオムツ外しに取り組んでおり、当ホームも把握した排泄パターンを共有し、昼・夜間に応じた支援方法やパットの併用などにより個別支援の充実に努めている。日中はトイレの使用を基本としており、使い慣れた場所や込み合うような場合は、空きを確認し誘導し失敗から不快や自尊心を傷つける事のないようにしている。また、トイレ内は臭気や汚れなど小まめに確認し、いつでも気持ちよく使用できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量は念頭に置き随時。水分とは別に、牛乳を毎日おやつ時に飲んで頂いている。食材でも出来るだけ、食物繊維の多い食材を使っている。腸への働きかけが期待でき、坐位の状態でも出来る下半身の運動をレクリエーションにて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴を取り入れ、利用者様の希望は積極的に取り入れている。正し、その日の体調を記録で確認しながら、夕食の前後で入浴して頂いている。完全な介助が必要な利用者様にも、洗髪・洗身は勿論だが、足湯・十分なかけ湯を行うなど行っている。	16時から21時までの夜間入浴を取り入れ、入居者の心地よい入眠に繋げている。早い時間を希望される場合は、昼食後の休憩を終えて支援するなど、柔軟に対応している。基本的に週3回の支援としているが、汚染時はその都度シャワー浴や清拭により清潔保持に努めている。身体状況からシャワー浴が中心になられた方には、かけ湯や足浴を併用しながら、寛いでもらえるようにしている。シャンプーなどはホームでも準備しているが、好みや皮膚の状態から個別で購入される方もおられる。	ホームの入浴は、個室で希望によりゆっくりと長湯も出来るようにしている。また、季節湯(菖蒲・柚子)を行う際は、全員が楽しめるよう数日実施している。今後も入居者にとって楽しい時間となるよう入浴支援を継続していきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様で入床されるタイミングは違うので、それに基づいた支援をしている。一度は寝られたが、目が覚められリビングに来られた時などは、お茶を提供したり、お話を傾聴したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が届くとまず、薬剤情報提供文書で確認を行う。処方薬が変わっていれば、スタッフ間で共有出来る様に、申し送りやケース記録にファイリングしている。服薬支援の際は確実に服薬された事を、口腔内に飲み残しがないかで確認している。症状の変化があった場合、ホーム看護職にすぐ確認をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	球根や種から育つ花の手入れが好きな利用者様にはホームの庭でガーデニングをして頂いたり、オルガンが上手な利用者様には弾いて頂き、皆で歌ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各利用者様で飴や果物・嗜好品、常時在庫を確保する為、利用者様と共に買い物に行っている。又、施設行事として、(お買い物ツアー/春・夏・秋)年3回実施している。ご家族様へは事前に連絡をし、参加して頂ける時は御一緒に頂いている。	天候に応じて出かける近隣の散歩は、入居者にとって季節を感じたり地域の人々と挨拶を交わす機会でもあり、職員は可能な限り取り組みようにしている。中には、毎日ホームの庭で、花の開花や樹木の様子などを見ることを楽しみに散策される方もおられる。また、要望の多い買い物は「お買い物ツアー」として、年3回、ショッピングセンターを中心に実施している。外出イベント時は家族へも参加協力を呼びかけ、家族とホーム外での家族との時間を後押ししている。取組の様子はホームだよりからも確認された。	身体状況から戸外に出る機会が困難になってこられる方もおられ、今後も玄関先や日当たりの良いリビングなどで外気浴を楽しむなど、個別支援に取り組みされることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様やご家族様の状況に応じて管理している。。お買い物の希望がある利用者様には、ご家族の希望により預かり、希望に応じて職員と買い物に出かけたりもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、利用者様の顔写真をご家族様への年賀状に貼り、スタッフの言葉を添えて送っている。又、希望があればご本人に代わり、ご家族に電話をし取次ぎをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に季節に応じた花や小物を飾ったりしている。また、季節が感じられるようなイラストなどで楽しい行事の案内を行っている。季節毎に、利用者様が手作りされた作品をホールに飾って楽しんでいる。	リビング食堂をはじめ、ホーム内は入居者の作品や職員が工夫を施しながら、来訪者にも季節を感じてもらえるような環境が作られている。また、庭先に咲いたものや職員の持ち寄った草花を飾ることで、心和む空間に繋がっている。電子ピアノを弾きながら大好きな歌を披露される方、お気に入りのジーンズでゆっくり寛がれる方など、思い思いの時間を過ごしてもらえるよう配慮している。ユニットで採光の違いはあるが、1階は間近に庭先を眺められ、2階からは、隣接した自動車学校の車や人々の動きの光景を眺める等、利点を生かし入居者に楽しみな時間を提供している。	各ユニットで職員が入居者の現状に応じながら、居心地よく過ごせるよう努めている。段上がりの畳の間は、雨天時などに洗濯物干しに使用されることもあるが、ハンガーは必要以外は別の場所で管理することが望ましいと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブル席とソファ・畳の間があり、テレビを観たりゲーム・体操・音楽を聴いたりして、個々にあった過ごし方をされている。利用者様同士の関係も考慮し、他のテーブルで過ごせる様にするなどして、見守りや、声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族様が配置された思い思いの写真やお花が飾ってある。居室でピアノを弾いたり、花壇を造ったりと利用者様の趣味を活かし過ごせる様にしている。	居室の環境については、入居時に使い慣れた家具や寝具などの持ち込みを依頼している。その後も日々のケアの中で必要な品などに気づいた場合は、その都度伝えている。家族の写真やテレビ、電子ピアノ、本や雑誌など、居室でも趣味の継続をはじめ寛げる時間を持てるような品が持ち込まれている。居室には洗面台が設置されており、見守りの必要でない方は、食後自分の部屋でゆっくり歯磨きやうがいされている。	加湿器の設置や褥瘡予防に繋げるエアマット、天然ゴム製の座布団など身体状況に応じ必要な品は家族と相談しながら準備している。今後も一人ひとりの好みや安全面に配慮しながら、居心地よく過ごせる居室作りに努めていただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は、利用者様一人ひとりにあったベッドの高さや配置にしている。高さ等は安全性を考慮した上で、ご本人の使い勝手が良いように配置している。更にADLや認知症に伴い、安全性を考慮し、動きやすい家具や品物の配置に心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100933		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホームこせん 2F		
所在地	熊本市中央区壺川二丁目3-70		
自己評価作成日	平成30年10月4日	評価結果市町村受理日	平成31年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成30年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本城のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校の教習場に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中学校があり、幼児から高齢者まで共に暮らす地域となっている。開設7年目を迎え、地域の方や他事業所からも様々な場面で声掛けを頂いている。又、近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、利用者とそのご家族が希望される「健康で安心できる生活」に近づける支援体制となっている。沢山の方々に支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも「大家族」の一員になれるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成23年に設立したホームは、坪井川沿いの立地を生かした散歩で季節を感じたり、地域の人々と挨拶や会話をする機会を持っている。地域の協力や連携は積み重なり、入居者の日常を更に活気ある充実したものに変えている。入居者への尊厳について法人全体で統一した方針を掲げ、ホームでもオムツ外しをはじめ全職員が重要性を認識し、チームワークでケアにあたっている。草花や樹木の開花、植えた花や野菜の成長具合などを楽しみに散歩や散策を楽しまれる方、アロハシャツやジーンズなどお気に入りの衣装で過ごされる方、得意の歌声やピアノ演奏など入居者の表情からもホームが安心した生活の場になっていることが窺える。ホームの年数と共に入居者も身体機能が低下され、以前のように昔話を笑いに変えてくださることは難しくなって来られた方もおられるが、職員は残されている能力を大切に見守り、反応を見ながら、語り掛けを行っている。今後も一人ひとりに応じた居心地の良さを提供するホームとして活躍頂きたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念に基づいた考え方を基に利用者のお一人お一人の残された能力を活かして自立支援を行う。家族や家庭により近くなれるように努めスタッフ間での情報の共有をはかりながら家族が参加しやすい環境をつくる</p>	<p>「お一人お一人の残された能力を生かしながら、個々に役割を担って頂き、安心した居場所作りが提供できるよう援助します」の他、3項目を理念として掲げている。ユニットごとに目につきやすい場所に理念の掲示を行う他、申し送り等にて基本理念を確認し、実践に努めている。また、運営推進会議でも、年度初めには理念について説明するなど周知を図っている。</p>	<p>理念については、日々のサービスの提供場面ごとに、できているかいないかを検証し、できていない部分については、どう見直していくか等の振り返りを職員間で話し合われることを期待したい。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域との繋がりを大切にして、地域のイベントにも参加できるように1年間行事に組み込み、地域の夏祭りや年末の餅つきなどのイベントに参加している。</p>	<p>校区の夏祭りや隣接の自動車学校のイベントでは、参加できる内容で交流を楽しめるようにしている。また、散歩する際には、地域の方々に挨拶や声を交わすなど交流を図っている。カラスの被害対策に自治会の支援を頂いたり、地域の交通安全対策として、ホーム建物前のT字路にカーブミラーの設置の協力の要望を受け、法人と速やかに検討し応じている。地域との交流や理解に繋がるよう、管理者は、行事の案内チラシを直接近隣・地域に配布するなど努力もあり、開設当初に比べ密になってきている。</p>	<p>昨年は、専門学校生の介護実習を受け入れているが、今後は、小・中学生の福祉体験、職場体験の受け入れや、保育所、幼稚園との交流について、情報の発信をするなど取り組まれることが期待される。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>「ささえりあ」が認知症の理解を深めるための講座など開かれている。認知症の在宅介護の問題点や認知症の暮らす社会が生活しやすいものになるようにグループホームとしての情報の発信を継続している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開き実際に利用者とはふれあう機会をつくり実際に行事の中に会議のメンバーも入ってもらい意見交換を行い相互の理解を深めてもらっている。	運営推進会議は、2か月ごとに自治会の代表、老人会長、民生委員、地域包括支援センター、家族などの参加により開催している。年に数回は、風水害時対応の避難訓練やそうめん流しなどの行事に参加してもらい、入居者の様子を見てもらうようにしている。会議では、行事報告、現状説明などの後に質疑や活発な意見交換などが行われていることや、地域代表からの貴重なアドバイスなど有意義な会議になっていることが議事録から確認できた。外部評価の後は、結果報告・説明されている。	運営推進会議の議題として、次回には、「看取り」をテーマに話すことが予定されている。今後は、食事、排せつ、入浴支援等身近な取り組みをテーマにし、ホームの取組を伝える事で参加者にもわかりやすく、意見交換の幅も広がるものと思われ、検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者が新規入所され、地域社会の中で過ごされた方も多く、その方々の支援の為、中央区役所保護課のケースワーカーの方と連携し、ホームでの生活の移行をサポートして頂いた。	運営推進会議には、毎回、地域包括支援センターが出席し、ホームの実情を理解するとともに、必要な情報を提供している。また、会議や研修への案内もあっており、今年度は、地域ケア会議に出席している。更に、区役所保護課とは、直接連携し対応するなど、良好な協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会やホーム会議または単独の時間を設け身体拘束廃止委員会を実施、職員全体への復命講習会を開き身体拘束の防止について話し合う。身体拘束の問題として取り上げることで、業務の中に潜在していることを把握する。	身体拘束廃止・虐待防止の勉強会は、3ヶ月に1回の実施に努めている。また、ケアの中で、事例等が出てきた時を捉えて、実践的に実施するようにしている。直近の虐待死事件発生後は、ホーム会議で話し合いをするとともに、市の特別集団指導や関係団体の緊急ミーティングに出席し、復命講習会を開くなど予防の徹底に努めている。安全面から使用している夜間のインターホンや布団の鈴は、継続の必要があれば家族に説明している。	管理者は共に業務にあたり、会議に限らず話を聞く機会を持ちコミュニケーションを図るなど、メンタル面への配慮に努めている。今後も、事例を含めた研修や特に夜間帯の業務でユニット間の職員が状況を確認する時間帯を持つなど、支え合うことで負担が少しでも和らぐのではと考える。出来る事がないか今後も検討していかれることを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政が行う外部の講習会に参加し、職員全体への復命講習会を開き虐待の防止について話し合う。虐待の問題として取り上げることで、業務の中に潜在していることを把握する。虐待の通報の義務や罰則規定等についての周知を図り行政の地域包括支援センターの役割について学ぶ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての講習会に参加して、施設内での勉強会を開き権利擁護の現状について理解を深めることで日常生活自立支援事業や成年後見人制度の内容の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料金の説明、食費や居住費のことについて説明を行う。サービス内容や重要事項説明などを行い利用開始して頂いている。不明な点などいつでも聞いて頂ける様にコミュニケーションを図る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の実施してうる。欠席されているご家族との話は、施設に見えるときに話をして近況の報告や状態の報告を行う。不明な点や疑問などについても質問してもらうように声掛けをして質問しやすいように対応している。	入居者の意見、要望は、普段の関わりの中で聞くようにしており、買い物ツアーなどの実現に生かされている。家族会からは、職員とのコミュニケーションが円滑にいくようにとの要望があり、勤務スタッフボードを設置している。家族の意見等は、申し送りノートに記載し、職員で共有するとともに反映させている。家族には、運営推進会議にも参加を呼び掛け、会議メンバーに意見や要望等を伝えられる機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例にて話し合う機会をつくる。運営上のことなどその都度サービス内容の変更点などについての説明を行う。職員の意見交換の場としてもこの皆が集まる時をりようしている。	職員の意見や提案は、ホーム会議(月1回開催)や日々の業務の中で聞くようにしており、管理者もケアに入り、意見等を言いやすい雰囲気づくりに努めている。職員からは、会議の時のホワイトボードの設置や、入居者に乳酸菌飲料を飲用してもらってはどうか等活発に意見が出されており、それを生かすようにしている。法人施設長も可能な限りホホームを訪れて、入居者と会話をしたり、職員からの話を聞き実情を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員が学びたい事を基に研修会や講習会などへの参加を計画し、職員全体へのスキルアップのため伝達講習会などを開く。施設全体の資質向上に繋がるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会や行政からの研修会などへの参加をすることで、近年の問題点などを学ぶことで自分達に足りない事などを理解した上で、感じたことをスタッフ間で話し合い。職員間の士気の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所で行われている意見交換会に参加して実際に直面していることなど、重要なことから些細な事まで意見交換の場としてお互いの交流の場所としている。災害のときの協力体制なども検討してお互いが支援できるように日頃からの交流を行う。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問を行い本人や家族から情報収集しサマリーを作成を行い職員間で共有し入所されてからも日々の出来事を記録し過ごしやすい環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の見学、面談を行い希望等をお聞きし入所後も面会時などにご本人の状態をお伝えしている。不安な事、要望などは職員がお聞き、管理者に報告し対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人、家族が必要としている事を伺い医療面は看護師、生活面では管理者が中心とたってホーム会議を行い職員全体で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の掃除、洗濯、料理作り等、声掛けを行い、本人の出来る範囲で作業を行って頂いている。行事時などは楽しく本人に参加して頂けるよう雰囲気作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化があった場合は、直ぐに家族に連絡し、生活面、医療面で家族と共に改善出来るよう努めている。面会時などは状態報告を行い不安がないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	四季に応じたイベントを行ったり、地域の祭りに参加したり、歌が好きな方々にはカラオケ会を開催を行っている。又、馴染みの理髪店に付き添いを行い、個人にあった支援を行っている。	買い物ツアーで以前から利用していたスーパーや商店街に入ったり、行きつけの理髪店を引き続き利用するなど、馴染みの関係が継続できるよう支援している。また、行事等で家族と食事処に出かけたり、お墓参りに出かける入居者もおられる。更に、楽器の演奏や庭いじり、好みのジーンズやアロハシャツの着用等、趣味、特技、こだわり等についても継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の中で一人ひとりの性格や他利用者との関係を把握し、席替え等、ホーム会議を行い心地よい空間作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された際には、お見舞いに行き現在の状態を連絡ノートに記録し職員全員で情報を共有し家族の相談にあたっている。又、退所された家族にも施設のイベント等、お誘いし参加を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個々に好みがあるので、お手伝いして頂く事やレクレーション時に歌や踊りなど興味を持ってもらえる事を中心に実施している。又、困難な方の場合もご家族に好みなどをお聞きし居室で音楽をかけることなどを実施している。	日頃の会話や日常の関わりの中で、入居者一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。耳の不自由な方には聞こえる側から話しかけ、発語困難な方には表情や行動等から汲み取り、家族からの話も聞き、思いや意向の把握に努めている。職員間で気づいたことは、連絡ノートを活用して情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の基本情報や家族様からこれまでの暮らしの情報収集を行い、その情報を基に利用者様と会話等をする事によりさらにこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人それぞれの残存機能を把握しできる限り能力が保てるように利用者様とコミュニケーションや掛け声等で楽しみながら日常生活をおくことで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議や勉強会などの機会に職員から利用者様の状況の把握をし家族様からの意見や要望を聞き取りながら介護計画を作成している。またプランの見直しを行う際も家族と話し合いを行い現状に即したものとなるようにしている。	日々の生活や会話の中から、本人や家族の意向を汲み取り、ケアプランに繋げている。現状に変化が生じた場合は、再アセスメントを実施し、モニタリングを行いながらケアプランに反映させている。モニタリングは3ヶ月毎に行い、現状に即した計画を作成している。家族への説明は、わかりやすいよう確認しながら進め、了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の個別記録を利用者様の一言一言細かく担当者や当日関わった職員が記録する事により全職員がその人にあった関わり方ができる他介護計画の見直しなどに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在取り入れているマッサージや行きつけの美容室のある利用者には一緒に同行するなど、本人様や家族様の要望に対し柔軟な支援が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地域のイベントに参加を行っている。又、地域の方々に慰問(歌、踊り、演奏)頂き、楽しみを増やす支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医について確認している。協力医は週一回の往診、24時間の相談、指示の緊急体制に対応頂いている。必要時には医療機関の紹介もあり専門医の受診に繋げ支援に努めている。	家族の了承を基に、現在は全員が協力医による定期往診や必要に応じた個別診察を受けている。緊急時などにも対応可能な協力医の存在は家族や職員にとっても心強いものとなっている。専門医については、基本的に家族対応としているが、困難な場合は、ホームでも柔軟に応じている。入居者の日頃の健康状態や受診結果については、家族と共有を図り、相談に応じながら適切な医療支援ができるようにしている。年齢や入居年数から身体機能が低下していく現状もみられ、日々の健康管理には特に注意を払い、気になることは医師への相談を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は配置の看護師により24時間のオンコール体制で対応を行い、異変や緊急時には主治医に状態報告の上、受診に繋げ支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療できるように情報提供を行っている。又、退院時には訪問し主治医から指導、助言や医療スタッフとの情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず契約時に、終末期に於ける説明を行っている。状態変化が見られた時はご家族、主治医、スタッフと今後の方針について検討を随時行っている。	入居時に重度化した場合の対応について指針をもとに説明を行い、家族の意思を確認している。状態に変化が生じた時点で、家族や医師・職員など関係者と今後の方向時点で再度話し合っている。家族の思いはその都度変化するものであり、職員間でも思いに応えるために出来得る対応を検討している。この2年間で行われた看取り支援では、家族や医師の協力もと安らかな最期を迎えられ、支援度は本人様を偲ぶ時間が持たれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行っている。また外部からも講師を招き年に1度救急救命の勉強会を実施。スタッフの知識、技術向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施し避難誘導、消防への連絡手順等の確認を行っている。地域の方々へは運営推進会議の中で広報誌を活用し避難訓練の様子を説明しながら協力体制へお願いをしている。	地域の方々の協力を得た、年2回の避難訓練と、風水害を想定した訓練を年1回実施している。訓練後は設備機器メーカーをはじめとした参加者から受けた意見を今後活かしている。火元をはじめ、日々の安全チェックは夜勤者を中心に行っており、食備蓄は1週間分と、カセットコンロなどの備品を備えている。	管理者は電動ベッドのコンセントについても、状況では発火に繋がらないかなど課題を挙げている。今後もホーム内に危険箇所はないかなど、意識を持って安全管理に努めていかれることを期待したい。また、発生した熊本地震についても、風化させることなく、自然災害についても定期的に取り上げていかれることを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶は眼を見て行き、介助の前には声掛けし不安を抱かないよう対応して。トイレ誘導時はドアを閉めその方に応じてはトイレの外で見守りを行うようにしている	入居者の尊厳に配慮した支援については、オムツ外しをはじめ法人全体の指針として、周知徹底されている。個々の能力を生かしながら、役割を担ってもらい、安心したホームの生活を提供することを職員間で共有し、実践に繋げている。呼称は苗字や下の名など希望や家族にも確認しながら対応し、会話も馴れ合いの言葉など失礼のないようにしている。入浴で同性介助を希望される方にも対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や行動に気を配り、その希望や思いが実現できるよう支援している。自己表現が出来ない方にはこれまでの頑張ってきた趣味や職業歴を参考にできる事を一緒に考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や訴えに傾聴し可能な限り、ご本人の意思に沿えるよう支援している。趣味や特技に目を向け把握するよう努め無理、負担のないように声掛けし支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の着替えは自分で選んだり職員と選んで頂き、その方の「着たい」を肯定的に共有するよう支援している定期的に美容師さんにきてもらい希望に沿ったヘアスタイルを実現している。外出時は希望に応じて化粧、マニキュア等している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自分の出来る範囲で料理手伝い、食器拭き等の作業を行って頂いている。毎月1日の赤飯の提供や誕生日には特別食等を作り日常食に変化をつけている	各ユニットで入居者の希望や季節感を味わってもらえるような献立を作成している。新鮮な食材が市場から届けられ、入居者も食材切りや味見など出来る事で食への関わりを持ってもらっている。家庭的な料理を盛り付けにも工夫し、入居者と職員が食卓を囲むことで、話も弾み満足の度合いも確認できている。誕生会をはじめ、正月やひな祭りなどの行事食にも入居者が喜んでもらえるよう、ひと工夫を凝らしており、ホームだよりでも紹介されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理にはなるべく多くの食材を使用し栄養のバランスに配慮している。いつでも水分が飲用できるようにリビングにポットや急須を設置している。栄養が吸収されにくい方は栄養補助食を併用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し上手に出来ない方は声掛けを行いながら支援している。口腔状態に応じて口腔スポンジ、ハブラシを併用している。毎食後のチェック表に記入し口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツを基本とし気持ちよく過ごして頂けるよう支援している。また、個別の排泄タイミングをノートにて管理し排泄間隔の把握し体動や訴えにすぐに対応できるようにしている。	法人全体でオムツ外しに取り組んでおり、当ホームも把握した排泄パターンを共有し、昼・夜間に応じた支援方法やパットの併用などにより個別支援の充実に努めている。日中はトイレの使用を基本としており、使い慣れた場所や込み合うような場合は、空を確認し誘導し失敗から不快や自尊心を傷つける事のないようにしている。また、トイレ内は臭気や汚れなど小まめに確認し、いつでも気持ちよく使用できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食に献立の中に食物繊維や乳製品等、多く含む食品を取り入れ自然排便を促している。日中のレクリエーションに体操を取り入れたり便秘が続く場合は腹部マッサージ等で促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが(毎週火、木、土)、体調や希望により日にちを変更したり清拭、シャワー浴に変更し個々に合った入浴を行っている。季節風呂も取り入れ入浴の楽しさを広げている。	16時から21時までの夜間入浴を取り入れ、入居者の心地よい入眠に繋げている。早い時間を希望される場合は、昼食後の休憩を終えて支援するなど、柔軟に対応している。基本的に週3回の支援としているが、汚染時はその都度シャワー浴や清拭により清潔保持に努めている。身体状況からシャワー浴が中心になられた方には、かけ湯や足浴を併用しながら、寛いでもらえるようにしている。シャンプーなどはホームでも準備しているが、好みや皮膚の状態から個別で購入される方もおられる。	ホームの入浴は、個浴で希望によりゆっくりと長湯も出来るようにしている。また、季節湯(菖蒲・柚子)を行う際は、全員が楽しめるよう数日実施している。今後も入居者にとって楽しい時間となるよう入浴支援を継続していきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間入浴を取り入れ良質な睡眠ができるように支援している。居室で過ごされる時間が長い方には好みの音楽を流し居心地良い環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報管理はファイルで一元化し、薬の変更や臨時薬等の大事なことはふせんを活用し申し送り、共用ノートで確認し全職員が共有できるようにしている。状態変化時は、看護師、医師に迅速に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体状況や気分に合わせて食器拭き、洗濯物たたみ等、負担にならないよう注意しながらお手伝い頂き、役割をもつことで生きがいを感じて頂けるよう努めている。嗜好品等は当人と相談の上で出来るかぎり希望にそえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、買い物ツアー等行事を企画し地域の行事にも積極的に参加し外出できる機会を増やしている。また、本人から外出希望がある場合は家族と相談の上、希望にそえるよう支援している。	天候に応じて出かける近隣の散歩は、入居者にとって季節を感じたり地域の人々と挨拶を交わす機会でもあり、職員は可能な限り取り組みようにしている。中には、毎日ホームの庭で、花の開花や樹木の様子などを見ることを楽しみに散策される方もおられる。また、要望の多い買い物は「お買い物ツアー」として、年3回、ショッピングセンターを中心に実施している。外出イベント時は家族へも参加協力を呼びかけ、家族とホーム外での家族との時間を後押ししている。取組の様子はホームだよりからも確認された。	身体状況から戸外に出る機会が困難になってこられる方もおられ、今後も玄関先や日当たりの良いリビングなどで外気浴を楽しむなど、個別支援に取り組まれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年二回、お買い物ツアーを開催しご家族、スタッフと一緒にショッピングを楽しんで頂いている。又、ご希望時は近くのお店にて買い物出来るように支援している。金銭はご家族の希望で預かりをしているが、ご本人の希望で所持している方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や必要に応じ支援に心掛けている。又、小包やお便りが届いた際は個別に対応している。誕生日や年賀状が届いた場合には、居室に飾ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には花や季節に応じて、入所者の作品等を展示し居心地良く過ごせるようにしている。	リビング長室をはじめ、ホーム内は入居者の作品や職員が工夫を施しながら、来訪者にも季節を感じてもらえるような環境が作られている。また、庭先に咲いたものや職員の持ち寄った草花を飾ることで、心和む空間に繋がっている。電子ピアノを弾きながら大好きな歌を披露される方、お気に入りのジーンズでゆっくり寛がれる方など、思い思いの時間を過ごしてもらえるよう配慮している。ユニットで採光の違いはあるが、1階は間近に庭先を眺められ、2階からは、隣接した自動車学校の車や人々の動きの光景を眺める事が出来、利点を生かし、入居者に楽しい時間を提供している	各ユニットで職員が入居者の現状に応じながら、居心地よく過ごせるよう努めている。段上がりの畳の間は、雨天時などに洗濯物干しに使用されることもあるが、ハンガーは必要以外は別の場所で管理することが望ましいと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内では仲のいい方が周りるように配慮している。また、好みの席やレクリエーション時等自由に移動でき、好きな場所にいつでもいられるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の段階で本人が長年愛用していた品物を持ち込んで頂ける様にご家族と話し合い、本人が過ごしやすい空間を作れるようにしている。	居室の環境については、入居時に使い慣れた家具や寝具などの持ち込みを依頼している。その後も日々のケアの中で必要な品などに気づいた場合は、その都度伝えている。家族の写真やテレビ、電子ピアノ、本や雑誌など、居室でも趣味の継続をはじめ寛げる時間を持てるような品が持ち込まれている。居室には洗面台が設置されており、見守りの必要でない方は、食後自分の部屋でゆっくり歯磨きやうがいされている。	加湿器の設置や褥瘡予防に繋げるエアマット、天然ゴム製の座布団など身体状況に応じ必要な品は家族と相談しながら準備している。今後も、一人ひとりの好みや安全面に配慮しながら、居心地よく過ごせる居室作りに努めていきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者1人1人の状態を考慮しリビング内の配置を工夫。ベッドの間取り等、ご本人が過ごしやすいように行っている。		